

## 開催！淀川大掃除

8月7日(日)、淀川河川敷にて「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を開催!

淀川掃除を始めて5年目となる今年、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長から

「淀川サポーター」に認定されました。今回はその記念事業として、体育会本部やミズノ株式会社などの協力で大規模な淀川掃除を行うことができました。参加人数はなんと約500人、集めたゴミは80袋にもものぼりました! 大人数の活動だったため、横一列に並んでローラー作戦を実行しているグループもありました。

その姿は淀川大掃除ならではの姿ですね! 私たちは今後も定期的に淀川清掃を行っていきます。いろいろな人と交流しながら楽しく活動をしたいという方、奮ってご参加ください!



# Volury

ボラリー 関西大学ボランティアセンター通信

## 始めよう! 私たちにできること

Vol.16

発行日: 2011年(平成23年)12月9日  
発行: 関西大学 ボランティアセンター  
大阪府吹田市山手町3丁目3-35  
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121  
<http://www.kansai-u.ac.jp/volunteer>

Index:

いま、私たちにできること  
▶P1~2

ボランティアについての  
意識調査  
ボランティアに参加するには?  
▶P3~4

連載 第4回学生スタッフ  
ボランティア体験隊  
▶P5~6

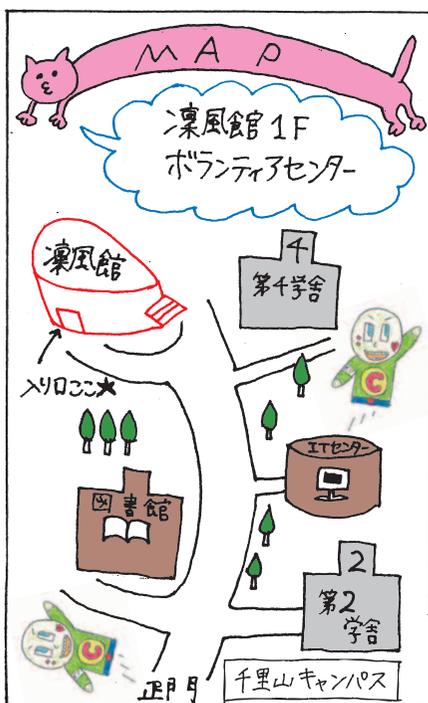
### 編集後記

今回は学園祭準備と同時に制作が始まり、とてもバタバタしながらも充実した日々を過ごす事ができました! 気がついたら一日ボランティアセンターにいたこともありました(笑)。私たち学生スタッフは、前回の発行から淀川大掃除、被災地ボランティアや学園祭などいろいろなことを経験しました。ボラリーはその経験を通して、私たちが関大生の皆さんに伝えたいこと、関大生が知りたいこととは何かを考えて作っています。皆で試行錯誤してきたこのボラリーVol.16、この冊子を読んでいただいた方々への想いが伝われば嬉しいです。また、アンケートも目標をはるかに上回る数の学生さんが答えてくれて嬉しかったです。制作を助けてくれた様々な方に感謝の気持ちでいっぱいです!

編集長: なつちゃん 補佐: みつきー

編集委員: わかちゃん、あんちゃん、ポン

今回の編集に携わったことで、「いま、私たちにできること」について改めて考えることができました。本誌を読んだ方にも、じっくり考えていただきたいです。(VC職員ま)



被災地支援のために関大生が「いわてGINGA-NETプロジェクト」に夏休みを利用して参加しました。その関大生に実際に被災地に行った経験を活かして、今関西からできる支援とは何かを学生スタッフがインタビューしました。

### いわてGINGA-NETプロジェクトとは??

岩手県立大学学生ボランティアセンター、NPO法人さくらネット、NPO法人ユースビジョンが主体で行っている。1週間単位で毎週約100~200人、のべ約1000人で仮設住宅でのサロン活動(コミュニティ作り)や学習支援などを行うもの。



#### 計倉さん(法・2年次生)

活動場所：  
岩手県一関市花泉町日形、  
岩手県釜石市旧釜石第一中学校



#### 松原さん(文・3年次生)

活動場所：  
岩手県釜石市仮設住宅



### Q. なぜ被災地に行こうと思いましたか?

とにかく現地に行って何かしたいという思いが強かったから。メディアでさまざまなことが報道されているけれど、実際に自分の目で見て確かめたかった。

心理学を専攻していて心のケアに関心があり、今こそ心のケアが必要だと思ったから。自分に何ができるのかという葛藤があったが、何ができるかは被災地に行ってから考えようと思った。

### Q. ボランティアに対する関心は、東日本大震災が起きる前後で変わりましたか?

神戸出身で阪神淡路大震災を経験したこともあり、もともと災害ボランティアに関心があった。

海外支援に関心があり海外に送るための募金活動などを行っていたが、東日本大震災が起きてまず日本が先だと思った。

### Q. ボランティア活動中一番印象的だったことは何ですか?

開き直るしかないと言っていたり、メディアではあまり報道されないけれど前向きな方がいたこと。

水道代を節約するために談話室内のトイレを借りに来る方がいたこと。そこまで大変な思いをされている。

### Q. ボランティア活動中うれしかったことは何ですか?

137戸ある仮設住宅の中で人見知りされる方も、活動の最後には話をしに来てくれるようになったこと。

サロン活動を行っている談話室内で、被災者同士が共通の話題で盛り上がり、仲良くなったこと。被災者同士のネットワークの形成を目的として活動していたため、そのお手伝いができていると実感してうれしかった。

### Q. ボランティア活動中つらかったことはありますか?

被災者の中には今までに押し付けのようなボランティアをされた経験があって、ボランティアに対するイメージがよくない方もいたこと。

仮設住宅の割り振りが一家に一部屋であったり、洗濯物を1階にしか干せないから女性の下着などが干しにくいなど不便なことが多く見ていてつらかった。

### Q. 実際に被災地に行って必要だと思った支援は何ですか?

小さい子どもを預かる施設。  
小学校高学年からの女性の服。

ニーズにあった物資を送ること。

### Q. 関西でもできる東日本大震災に対する支援は何ですか?

募金が関西でもできる支援。物資はニーズ・支給先を確かめてから送ることが大切!

常に考えること・忘れないことが関西でもできる一番の支援!! 物資を確実に送ること!

私たち学生スタッフは、お二人にインタビューさせていただいて、関西でもできる支援は、精神的な支援と物質的な支援の2種類に分けられると考えました。

#### 精神的な支援

東日本大震災を風化させないために、**精神的な支援**として、7月に商学部長谷川ゼミナールとNPOスマイルホープ代表の犬飼ともさんが主催して、関西大学ボランティアセンター協力のもと、「ワタノハスマイル@関大」が行われました。

これは、被災した宮城県石巻市立渡波小学校の子どもたちが、校庭に流れてきたがれきで自由に作ったオブジェの展示会です。

#### 物質的な支援

被災地に対する**物質的な支援**として、支援物資を送ることがあります。またこの際、支援物資のニーズ・支給先を確認してから送るといことが大切です。「必要な物」を「必要な分」「必要とする被災地」へ送るために様々な団体がプロジェクトを行っています。

【ご参考】

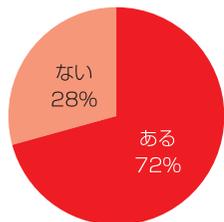
「ふんばろう東日本支援プロジェクト」  
<http://fumbaro.org/>

「ボランティアプラットフォーム」  
<http://b.volunteer-platform.org/>

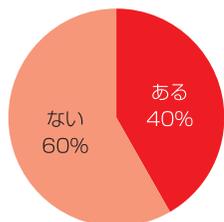
## 関大生213人に聞きました！

10月26日～28日の3日間、凜風館1階学生ラウンジなどにいた関大生にボランティアについての意識調査を行いました。

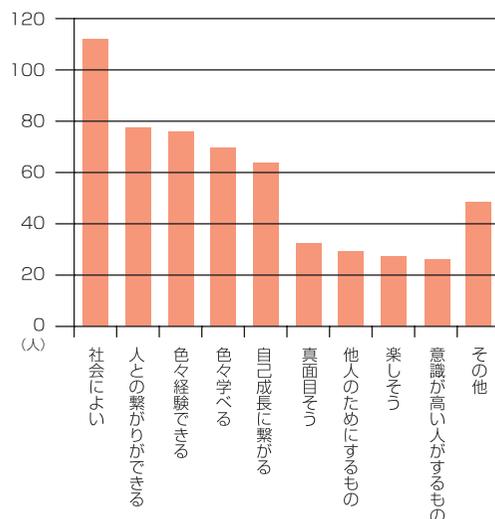
Q. ボランティアに興味がありますか？



Q. ボランティアに参加したことはありますか？



Q. ボランティアに対してどのようなイメージがありますか？（複数回答可）



回答者のうち70%以上がボランティアに興味があるという結果になりました。その中には『僕たちは世界を変えることができない。 But, we wanna build a school in Cambodia.』などのボランティア関係の映画や、東日本大震災、そして様々な講演会で影響を受けたという学生がいました。アンケート調査の結果からもわかるように、ボランティアに対する良いイメージを抱いている学生が多いようです。また「自分に余裕のある人がするもの」「就職に有利」「ありがたい迷惑ではないか」などといった意見も寄せられました。ボランティアに興味のある学生が70%以上いる一方で、実際にボランティアに参加経験のある学生はわずか40%にとどまり、参加経験のない学生の多くからは、参加すること自体に不安を感じる、どのようなボランティアに参加してよいのか、またどのように参加するのかがわからないといった意見がありました。このアンケート調査を行った結果、ボランティアに対する漠然とした不安や、参加方法がわからないといった印象をもっている学生が多いことがわかりました。そこで次ページでは、ボランティアセンターで取り扱っているボランティアの種類や、どのようにボランティアに参加するかなどを大まかに紹介していきます。

## ボランティアに参加したいけど、どんなボランティアがあるのかなあ…

## 子ども

- ・野外キャンプ
- ・「オープン秘密基地を作ろう！」イベント撮影ボランティア
- ・児童の学習支援

## 動物

- ・犬の生活スペース清掃

## イベント

- ・吹田まつり運営ボランティア
- ・飛鳥光の回廊ボランティア
- ・花植えボランティア

## 環境

- ・淀川清掃活動
- ・芥川ミズヒマワリ駆除活動



## でもボランティアってどうやって参加したらいいのかなあ…

1. ボランティアセンター 窓口に行く
2. コーディネーターに相談する



3. 自分にあったボランティアを探す



5. ボランティアに行く



4. 自分で申し込みをする



## ボランティアコーディネーター実施中

自分にあったボランティアがわからないで困っている方、なかなか行動に移せないでいる方、今思っていることを誰かに話したい方は、ボランティアセンターへお越しください。ボランティアセンターでは月曜日～金曜日に学生スタッフによる、ボランティアコーディネーターを行っています。

※都合により実施できないことがあります。

ここでは、私たちが実際に体験&取材してきたボランティアを紹介しています。今回は「始めよう！私たちにできること」がテーマです。ボランティアの内容と活動中に感じたことを、学生スタッフの1年次生に語ってもらいました。1年次生にとって初めて経験することはばかりでしたが、「私たちにできること」を根底に活動した私たちの姿をぜひ見てください！



### ミズヒマワリ駆除活動

今回私たちは、特定外来生物に指定されているミズヒマワリの駆除作業を手伝いました。ミズヒマワリは大変繁殖力が強いので、根や葉を少しでも残すと増えちゃう植物です。そのため、集中して取り組みました。他の参加者と和気あいあいと協力しながら作業をしたので、2時間程度の作業があっという間に感じられました。川に入って作業をするのですが、川の流れが強く、足を取られそうになりながらの作業でした。慣れない作業でしたが、駆除し終わった後の川はとても綺麗で大きな達成感を得ることができました。作業が終わった後、他の参加者と一緒にお茶を飲みながらお話をしました。「若い学生が参加してくれるのは本当に助かるので、またお願いします」と言われたことが本当に嬉しかったです。この活動は年に2回ほど行っているとのことなので、これから多くの人に参加してもらいたいと思います。

あっきー（法・1年次生）



ミズヒマワリ駆除活動



飛鳥光の回廊ボランティア



アユの産卵場整備ボランティア

### 飛鳥光の回廊ボランティア

奈良県の明日香村で毎年行われる「飛鳥光の回廊」は、ろうそくに火を灯して明日香村を彩るというものです。私たちは日の丸や虹をイメージし、ろうそくを並べるところから始めました。でこぼこした石畳にろうそくを均等に並べていくことは大変な作業でしたが、皆で協力し合って完成させることができました。18時からの点灯は幻想的で、日が沈むにつれて明日香村の風景がより一層優美なものに変わりました。何より、自分たちが試行錯誤して作り上げた作品が明日香村の明かりの一つになっているという喜びが達成感につながりました。

きっしー（経済・1年次生）



### アユの産卵場整備ボランティア

芥川の上流に昔はアユがたくさんいましたが、川が汚くなりアユが全く見られなくなった時があったそうです。アユに帰ってきてほしいという願いから、NPO法人芥川倶楽部という団体が川の整備をはじめ、最近またアユが見られるようになりました。私たちはそれを手伝うために参加しました。はじめは「ゴミ拾いかな？」と思っていたのですが、川の手入れは行き届いており、とてもきれいだったので、どんな整備をするのだろうと不思議に思いました。整備は川の底の土をひっくり返すというものでした。アユは柔らかい土の上に産卵するからだそうです。胴長というつなぎを着て水の中で作業するのはとても新鮮で楽しく、来年もぜひ参加したいと思いました。

ボン（政策創造・1年次生）

